

おと
音をあらわすことば

2年 ねん
ごく 14ばん

なまえ

「雨^{あめ}がふる」と書^かくだけで
は、どんな雨^{あめ}か分^わかりません。
「ぽつぽつふる」と書^かくと、ふ
りはじめの雨^{あめ}だと分^わかります。
「ざあざあふる」と書^かけば、つ
よい雨^{あめ}です。

このように、音^{おと}やようすを
あらわすことばをつかうと、読^よ
む人の頭^{あたま}の中^{なか}に、その場^ばめん
がうかんできます。

音^{おと}をあらわすことばには、
「かみをびりびりやぶる」「た
いこをどんどんたたく」「はっ
ぱがさらさら音^{おと}を立てる」な
どがあります。

音^{おと}ではなくて、ようすをあら
わすことばもあります。「星^{ほし}が
きらきら光^{ひか}る」「心^{こころ}がわくわく
する」のようなことばです。



(1) 「ざあざあ」のいみに合うものを一つえらび、記^き
ごうに○をつけましょう。

ア 雨^{あめ}が少^{すこ}しずつふりはじめるようす

イ 雨^{あめ}がつよくたくさんふるようす

ウ 雨^{あめ}がやんでしずかになったようす

エ 雨^{あめ}が雪^{ゆき}にかわってふるようす

(2) 音^{おと}ではなく、ようすをあらわすことばはどれです
か。一つえらび、記^きごうに○をつけましょう。

ア どんどん

イ びりびり

ウ さらさら

エ きらきら

(3) 「ぽつぽつふる」と書^かくと、どんな雨^{あめ}だと分^わかり
ますか。文^{ぶん}しゅうから七^{なな}字^じで書^かきぬきましょう。

(4) 音^{おと}やようすをあらわすことばをつかうと、どんな
よいことがありますか。書^かきましょう。

書^かき方^{かた}のヒント

二^{ふた}つ目のだんらくの「つかうと」のあとを^みてみよう。
「うかんでくる。」でおわらせる。

音をあらわすことば

こたえ

2年 ごく 14ばん

なまえ

「雨がふる」と書くだけでは、どんな雨か分かりません。「ぽつぽつふる」と書くと、ふりはじめの雨だと分かります。「ざあざあふる」と書けば、つよい雨です。

このように、音やようすをあらわすことばをつかうと、読む人の頭の中に、その場めんがうかんできます。

音をあらわすことばには、「かみをびりびりやぶる」「たいこをどんどんたたく」「はっぱがさらさら音を立てる」などがあります。

音ではなくて、ようすをあらわすことばもあります。「星がきらきら光る」「心がわくわくする」のようなことばです。



(1) 「ざあざあ」のいみに合うものを一つえらび、記ごとに○をつけましょう。

ア 雨が少しづつふりはじめるようす

イ 雨がつよくたくさんふるようす

ウ 雨がやんでしずかになったようす

エ 雨が雪にかわってふるようす

(2) 音ではなく、ようすをあらわすことばはどれですか。一つえらび、記ごとに○をつけましょう。

ア どんどん

イ びりびり

ウ さらさら

エ きらきら

(3) 「ぽつぽつふる」と書くと、どんな雨だと分かりますか。文しうから七字で書きぬきましょう。

ふ り は じ め の 雨

(4) 音やようすをあらわすことばをつかうと、どんなよいことがありますか。書きましょう。

(れい) 読む人の頭の中に、その場めんがうかんでくる。

書き方のヒント

二つ目のだんらくの「つかうと」、「のあとを見てみよう。」「うかんでくる。」でお知らせる。

解答・解説 音を あらわす ことば（2年・ごく）

もん 問1 イ

はじめの だんらくに「『ざ^かあざあ^{あめ}ふる』と^か書けば、つよい^{あめ}雨です」と書いてあります。アは「ぼつぼつ」のようすです。

もん 問2 エ

四つ目の だんらくに「音^{おと}ではなくて、ようすを あらわす ことばも あります」とあり、「星^{ほし}が きらきら^{ひか}光る」が^で出て きます。とんとん・びりびり・さらさらは、三つ目の だんらくにある 音^{おと}を あらわす ことばです。

もん 問3 ふりはじめの^{あめ}雨

はじめの だんらくに「『ぼつぼつ^かふる』と^か書くと、ふりはじめの^{あめ}雨だと^わ分かります」と書いてあります。

もん 問4 （れい）読む^よ人^{ひと}の頭^{あたま}の^{なか}中に、その^ば場めんが うかんで くる。

二つ目の だんらくに「音^{おと}や ようすを あらわす ことばをつかうと、読む^よ人^{ひと}の頭^{あたま}の^{なか}中に、その^ば場めんが うかんで きます」と書いてあります。その^ば場めんが うかぶ^かこと^かが^か書けて いれば ○です。